



りっしゅう
【立秋】8月7日～8月22日頃

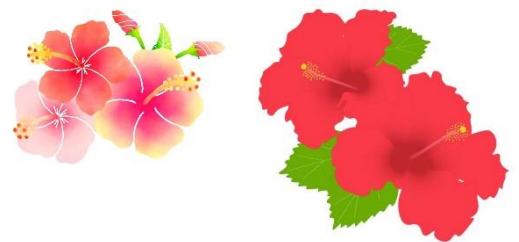
秋の1番目の節気。まだ8月ではありますが、ここから秋の始まりです。厳しい暑さは続くものの、そのなかでも吹き過ぎる風に涼しさを感じるときがやってきます。残暑の中に見え隠れする、かすかな秋の気配に心を留めてみましょう。

8月の行事【お盆】——8月13～16日頃——

本来のお盆は旧暦の7月15日ですが、全国的には8月のお盆（旧盆）が主流です。お盆にはあの世にいるご先祖様が生前過ごしていた土地に帰ってくるといわれています。ご先祖様を迎えるしたくとしてお墓や仏壇を清め、目印として盆提灯を飾って「盆棚」を作ります。地域や宗派により異なりますが、盆棚にはご位牌^{いはい}や故人の好物、ご先祖様の乗り物としてきゅうりや茄子の精^{なす}霊馬^{しょうりょうま}を飾ります。盆の入り（初日）にはお迎えの意味も込めてお墓参りに行くのが一般的です。

旬の花【ハイビスカス】——【花言葉】 繊細な美、新しい恋——

朝に開花し、夕方にはしぼみ、時間がたつとガクからぽとぽと落ちるハイビスカス。切り花としてではなく、鉢物として販売されます。ちなみに酸味のあるハイビスカスティーの原料は、このハイビスカスではなく、「ローゼル」という植物の花や実を乾燥させたもの。ローゼルも学名にハイビスカスとつくことから、そう呼ばれています。



8月の本「八月の光」朽木 祥／著

失われた声を拾い上げ祈りを込めた短編連作

広島原爆投下を生き延びた人々の物語として2012年に児童単行本として発表された『八月の光』は、多くの人の心を打ち、評価の高い作品でした。そして、2編を加えて小学館文庫化されました。このたび、著者の意向で、さらに新たに2編書き下ろしを加えて、7編の短編連作として児童向けに出版。

名前だけでしかない人があり、名前すら残らなかった人があります。ヒロシマの物語を書くということは、あるいは読むということも、そのような人びとの「失われた声」に耳をすませることなのだと私は考えています（作者あとがきより）。

